

医政局

Health Policy Bureau

すべての人のための医療を目指す

Our Mission

急速な少子高齢化に伴う疾病構造の多様化、医療技術の進歩等、医療を取り巻く環境が変化する中で、すべての人が良質かつ適切な医療を受けられるよう、質が高く効率的な医療提供体制の構築、これを支える医療人材の育成・確保、医薬品・医療機器等分野の研究開発・産業振興に取り組んでいます。

部局の所掌分野

地域における医療提供体制の確立

医療資源に限られる中、すべての人が良質かつ適切な医療を受けられるよう、病床の機能分化・連携の推進(地域医療構想)や地域包括ケアシステムを構成する在宅医療サービスの充実等を目指した取組を行っています。

医療人材の育成・確保

医師、歯科医師、看護師等医療を担う人材を育成するとともに、病院、診療所等における勤務環境の改善や看護職員の復職支援といった、医療従事者の定着・離職防止に係る取組を行っています。

医薬品・医療機器等に関する研究開発支援

医薬品・医療機器の開発には多大な時間や資金を必要とすることから、日本医療研究開発機構等を通じた研究開発の支援を行っています。また、再生医療、ゲノム医療等最先端技術の研究開発の支援を進めています。

医薬品・医療機器等に関する産業振興

医薬品・医療機器産業、再生医療等製品産業は日本の経済成長を牽引することが期待されている産業の一つです。産業界の要望を踏まえた産業振興や医療系ベンチャー企業支援等を進めています。

国立高度専門医療研究センター(ナショナルセンター)の運営

国民の健康に重大な影響のある特定の疾患について高度先駆的な研究開発や医療の提供、人材育成等を担うナショナルセンター(国立がん研究センター、国立循環器病研究センター、国立精神・神経医療研究センター、国立国際医療研究センター、国立成育医療研究センター、国立長寿医療研究センター)の運営管理を行っています。

政策紹介

01 将来に向けた医療提供体制の構築

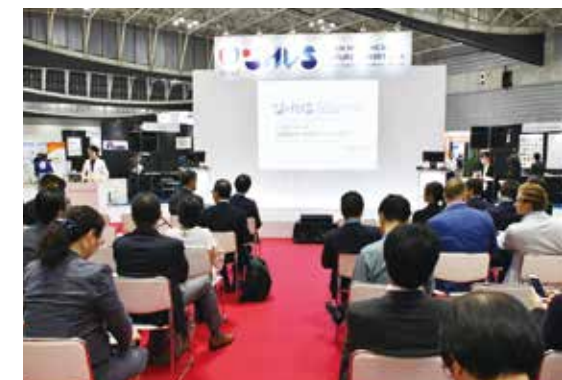
高齢化や医療技術の発展に伴い、治療中心の医療だけでなく、慢性期疾患治療や在宅医療等による病気と共存した生活の質の向上が求められる等、医療ニーズが多様化・複雑化しています。このような状況に対応するため、病床の機能ごとの将来の必要量等、地域の医療提供体制の将来のあるべき姿を地域医療構想として策定し、病床の機能分化・連携や在宅医療等の充実を図っています。こうした取組を通じ、日本の将来に対応できる医療提供体制の構築に取り組んでいます。



▲医療と介護の一体的な改革に係る主要な取組のイメージ

02 医薬品・医療機器産業等におけるイノベーションの促進

日本は数少ない新薬創出国であり、最先端のものづくり技術を有するため、医薬品・医療機器産業は、経済成長を担う産業として期待されています。近年は、高度な科学技術を革新的な医薬品等の創出につなげるベンチャー企業の役割が重要となっています。こうした中、「ジャパン・ヘルスケアベンチャー・サミット2018」を開催し、医療系ベンチャーへの理解を広げる等の取組を進めながら、革新的な医薬品、医療機器、再生医療等製品の開発・実用化を推進しています。



▲ジャパン・ヘルスケアベンチャー・サミット2018

03 災害医療への対応

近年も、平成30年7月豪雨、大阪北部を震源とする地震、平成30年北海道胆振東部地震が発生するなど災害大国の我が国において、災害発生時に国民の生命、安全、健康を守るため、災害派遣医療チーム(DMAT: Disaster Medical Assistance Team)の養成及び災害時の派遣調整、医薬品流通の確保等を行っています。



▲災害時にも活用されるドクターヘリ

Hot Topics

医師の働き方改革

現在、勤務医には長時間労働の実態がありますが、将来にわたり必要な医療が提供される社会を維持するには、医師が健康に働き続けられる環境の整備が必要です。このため、病院のマネジメント改革や、医師の業務を他の専門職が分担するチーム医療の推進を通じて、地域医療や医療の質を確保しつつ、医師の健康を守る「医師の働き方改革」を進めています。同時に、医療サービスの受け手である患者・国民の立場からも、上手な医療のかかり方を考える取組を広めています。

人生会議の普及・啓発

人生の最終段階においては、約70%の方が医療・ケアなどを自分で決めたり望みを人に伝えたりすることができなくなると言われています。自分が望む生を全うするために、年齢を問わず人生の最終段階における医療・ケアについて、事前に家族等や医

療・ケアチームと繰り返し話し合う取組が重要です。その取組の普及に向けて、愛称を「人生会議」、11月30日(いい看取り・看取られ)を「人生会議の日」と設定し、今後も「人生会議」の普及を進めていきます。



▲愛称選定委員会で「人生会議」と発表